

今年も目指そう 1等比率90%以上!!

稲作管理情報 第1号

平成 27 年 3 月 14 日  
 いなば農業技術者協議会  
 ○事務局【JAいなば営農生産課】  
 小矢部市赤倉97 TEL67-8000  
 【西部支店】67-8200 【東部支店】67-8300  
 【南部支店】61-8900 【福岡支店】64-8600  
 ○高岡農林振興センター 26-8480

気象変動に強い稲づくりには、**まずは土づくり、健苗育成から!**

1 春の土づくり 【昨秋に土壤改良資材や堆肥の施用がされていないほ場では、春施用を行いましょう!】

◎土壤改良資材(ケイ酸・アルカリ)の施用

資材名	主な成分(%)							施用量 (kg/10a)
	ケイ酸	アルカリ	リン酸	苦土	有機	鉄	カリ	
ケイカル(粒)	28	35		4				100~
けいさん鉄	21	36		3		13		100~
有機カリ入シリカロマン*	20	36	5	5	20	4	4	80~
カリ入り元気*	20	27	1.5	3	15		3	80~
元気	24	32	1.5	3	15	1		60~
省力ケイカル(粒)	30	38	3	4		1.5		45~

\*カリ入り資材は、カリの補給も可能です。(近年、土壤中のカリ含有量が減少傾向にあります)

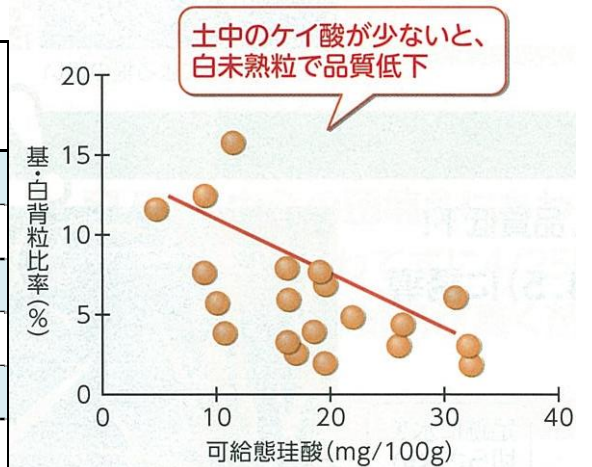


図 土壤中のケイ酸と基・背白粒

◎堆肥の施用(春散布の場合)

堆肥の種類	10aあたり施用量	10aあたり基肥減肥量(目安)
発酵鶏糞	75~100kg	窒素分で1~2kg
牛糞堆肥	1t	窒素分で1~2kg
籾殻堆肥	2t	減肥不要

\*堆肥を春施用する際は、窒素量を確認しましょう。

堆肥の施用田では、土質や地力を考慮し、基肥量を調整してください。

作土を深く起こすと、根が土中深く張り、生育後半まで稲体の活力が維持され、天候に左右されにくくなることで、**収量・品質の安定・向上につながります。**

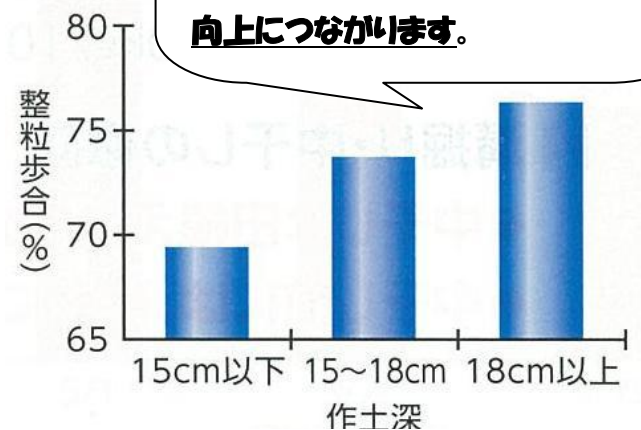


図 作土深と整粒歩合の関係

2 深耕し

- ・田面がよく乾いている状態で、なるべく**早い時期に耕起**を行いましょう。
- ・可能な限り**2回掛け**をして、ひこばえを土中深く埋めることで、田植えに支障がでないようにしましょう。
- ・トラクタの速度を落とし、ロータリーの回転数を遅くして、**作土の深さを15cm以上**(現状より3cm程度深くする)**確保**しましょう。

3 老化苗とならない計画的な播種!

- ①**育苗日数は20日間を基本**としましょう。20日間を越えると、老化苗となり、初期の強い分けつが確保しにくくなります。
- ②**田植日に合わせて播種日を設定**しましょう。
  - ・コシヒカリの田植を5月15日に設定する場合、浸種は4月13日頃、播種は4月25日の開始となります。
  - ・播種が早いと、田植を遅らせても老化苗になり、出穂も早回り、遅植えの効果なくなります。

◎計画作成例【コシヒカリ：5月15日田植えの育苗計画】

4月															5月																		
13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	
浸種(7~10日間程度)								タフブロック		催芽		籾干し		播種		出芽		育苗(播種日含めて20日間)															田植
・浸種水温は10~15℃を確保								種子消毒								※ハウス内の温度が30℃以上の場合、速やかに換気する。																	
・浸種積算温度は100℃以上を確保																搬出 (緑化)					(硬化)					夜間も換気を行う							



図 育苗日数と初期分けつの関係

4 大豆の作付予定地の排水対策 ~早めに排水対策を行い、播種作業が的確に行えるようにしましょう~

- ①額縁排水溝の設置 (必ず水吐尻につなぐ!!)
- ②弾丸暗渠の設置 (大きい径の弾丸を使用し、トラクタの幅で往復して、間隔を密に設置する!!)